

日本学校教育相談学会 第24回夏季ワークショップ Zoomライブ
＜午前の部＞ 13:00～16:00

Gコース（学会誌作成委員会）

「論文作成講座：学校教育相談実践を、心理学論文（科学論文）に仕上げる方法
—個に応じた素晴らしい実践活動の成果を、次世代に繋いでいくために—」

山崎 洋史

日本学校教育相談学会東京都支部理事長

仙台白百合女子大学心理福祉学科教授 博士 臨床心理士

総務省消防大学校客員教授「教育技法」

岡山大学医学部兼任講師「カウンセリング」

【Gコース概要】（学会誌作成委員会）

心理学科学論文の作成・投稿支援のための講座です。ご存知の通り、日本学校教育相談学会の他学会に無い特徴として、教育現場における素晴らしい教育相談実践を蓄積し、その知見やスキル・マインドを次なる世代の若い教職員へ繋いでいく目的があります。毎年、学会員の素晴らしい実践は「学校教育相談研究」に査読論文として掲載されております。

しかし、一方、日頃から素晴らしい教育実践をされていても、心理学論文（科学論文）を作成することに、慣れていない、初めてだ、自信がない、まとめ方に不安がある、あるいはまとめたが単なる実践報告になってしまう等のご質問をお受けすることは少なくありません（学会誌作成委員会）。それにお応えすべく、本研修では、教育実践を心理学論文（科学論文）にまとめ上げるための重要な視点やスキルを、確実におさえていきます。

実は（私事で恐縮ですが）、博士論文 2 本目である Ph.D.（博士号）を 2020 年 3 月に取得し、昨年の 2022 年 3 月に文科省科学研究費による学術図書として公費出版いたしました。

現在さらにまた 3 本目の博士論文を作成中です(笑)。そんな拙著者経験も含めて、最新の科学論文の作成・完成・出版プロセスの楽しさを共有できる講座にする所存です。

ワークショップ修了後、学会誌へ投稿したくなるモチベーションの高まりを自ら感じ、発見していただければ幸いです。

【本日の研修の流れ】

1. 論文とは（今なぜ論文？）

経験蓄積 価値生成 義務 伝承 科学 客観性 観察 記述 仮説 分析 方法定立

2. 臨床心理学論文の多様性と限界

120年発展途上 構成概念 定義 科学⇄スピリチュアリティ、マインド

3. 論文作成の技術

先行研究 オリジナリティ 旬 流行 仮説 反証可能性 モデル リフレーミング

4. 教育に生きる研究 再現性

5. 研究倫理

6. 研究論文（調査論文等）

調査等を実施し、統計的データを用いる研究は、倫理上の留意点や手続き上での配慮事項がある。データ収集、入力、分析方法、結果表現、考察、提言のポイント。

統計基礎知識、仮説構築、分析方法選択、因子分析・相関・検定・分散分析・重回帰分析・共分散分析、考察まで概観していく。

7. 実践論文（事例研究等）

教育相談・教育実践ケースを、個性記述していく研究（事例研究）。守秘義務の徹底と情報公開のバランスに関する課題を徹底。

自らの事例への関わり方の理解を深めその「意味を把握」する作業であり、他者がその事例から具体性を学ぶ目的。レアケースの記述など事例研究の効用と限界を知る。

8. 実践報告

9. 資料

10. 議論・説明

11. 研究 ➡ まとめる つたえる たかめる つながる ひろがる ➡ たのしい

- ① 文部科学省 日本学術振興会 2015 平成 27 年度科学研究助成事業（科学研究費研究成果公開促進費）「青年期食行動異常と認知行動的セルフモニタリング」（心理学分野学術図書）
- ② 文部科学省 日本学術振興会 2021 令和 3 年度科学研究助成事業（科学研究費研究成果公開促進費）「宗教と認知行動的セルフモニタリングー青年期の適応を通じてー」（心理学分野学術図書）